

令和2年12月24日 第54回東海再処理施設安全監視チーム会合
議論のまとめ

令和2年12月24日
東海再処理施設安全監視チーム

○本資料¹は、令和2年12月24日の東海再処理施設安全監視チーム（以下「監視チーム」という。）の第54回会合における議論について、監視チームから日本原子力研究開発機構（以下「機構」という。）に対する主な要求事項を整理し、東海再処理施設の安全対策に係る議論を簡易的にまとめたものである。

1. 事故対処の有効性評価について
(TVFの事故対処について)

【監視チームの指摘】

- TVFの事故対処について、TVF施設内の純水タンクのみを用いた対策によって、時間余裕をどの程度確保することができるのか説明すること。
- TVFの濃縮液槽等への直接注水については、各貯槽のサイズが小さいことや施設内水源が限られていることを考慮すると、エンジン付きポンプ等による注水の制御は困難であることが推測されることから、注水量の制御方法について説明すること。また、事故対処の実効性を確保する観点から、注水量の制御方法が計画通りに実施できるかどうかについて、要素訓練における確認の詳細を説明すること。

【機構の回答】

- TVF施設内の水源を用いた対策により確保できる時間余裕については、純水貯槽の増量した状態も考慮して設定したいと考えている。次回会合において説明する。
- 注水量の制御方法については、エンジンポンプを使用して可搬型流量計と液位計により直接注水の管理をする計画である。計画の詳細と要素訓練の確認の結果については次回会合において説明する。

(申請への訓練結果の反映について)

【監視チームの指摘】

- 要素訓練の結果を元に事故対処の各操作の所要時間を見積もる際は、津波によるウェットサイトを想定した場合のがれきの撤去など不確実性が大きい作業を考慮しても事故対処に時間余裕があることを説明すること。

【機構の回答】

- 要素訓練の結果を申請内容に反映する際には、訓練の結果を踏まえて不確実性を考慮して時間を設定する予定である。次回会合で説明する。

¹ 本資料は、会議の進行と同時並行で作成していることから、正確な表現ではない部分があります。また、誤字脱字、体裁等については、会議後に修正のうえホームページに掲載しています。

(訓練を踏まえた良好事例の反映について)

【監視チームの指摘】

○これまでの要素訓練における良好事例で特記すべきものがあれば教示されたい。

【機構の回答】

○良好事例を整理するという事は未だしていない。

○工夫としては、HAWの訓練を実施している時にTVFの関係者が実施状況を確認していることや、撮影して記録に残し、後で振り返りができるようにしていることなどは行っている。今後良好事例があれば適宜反映していきたい。

2. MP等の津波防護に関する対応について

【監視チームの指摘】

○資料4-1 別紙2の設備・機器の耐震性確認結果の表については、結果だけではなく、評価手法を記載すること。

【機構の回答】

○評価手法を整理し、資料を提出する。